

令和4年度山形県動物愛護推進協議会議事概要

1. 山形県動物愛護推進計画の取組状況

【委員】

庄内地区の管理センターは全く別のところに作る予定か。それとも同じ場所で、建物をすべて新しくするような形か。

【事務局】

今より利便性がよく、一般の方が訪れやすいよう、保健所の近くで考えている。

【委員】

犬・猫の譲渡数について、犬も猫も多くの譲渡が行われているが、これは1人の人が何頭も引き取っているのか。それとも、多くの方が引き取っているのか。

【事務局】

譲渡前希望者が、適正に飼える状態か、飼養できる環境か等を確認しており、1人が何頭も引き受けるのではなく、大勢の方が引き取ってくださっている状況である。

【委員】

小中学校で、ヤギや羊、メダカなどを飼っているようだが、世話をするにはお金も手間もかかってしまうし、メダカは2年で亡くなるという。例えば、アリであれば、飼育も簡単なうえに巣作りを見られるなど学びにもなると思う。

【委員】

メダカは、理科の授業の中で使うことができ、学習と紐づけて飼育していることが多い。確かにメダカは2年で亡くなってしまいが、大体小学校の学級は2年サイクルなので、前の学年のもの、前の学級のを継続して飼育することは難しい。ある程度割り切って学習に近いものや子供たちが取って持ってきたものを飼育し、愛護の精神を養いながら学習にも結びつけている。

2. 「ペット同行避難マニュアル案」について

【委員】

同行避難訓練について、1、2年ぐらい前は、「ペットも一緒に避難訓練したい」と市民が言っても、「今回は人だけで」と断られてしまう状況だったが、今はそういうことはないのか。

【事務局】

市町村の防災担当によって取組状況には差がある状況。市町村防災担当に対し、ペット防災のことにについて検討をお願いしているが、事前に確認をお願いしたい。

【委員】

私の会の会員は、何年も前から避難訓練に犬や猫を連れて行ったが、連れてくるなどと言われることはまずなかった。担当の気づきになったようだった。「家族なので訓練に連れて行って当然」という形で参加していいと思う。

【事務局】

8月の豪雨災害の報告では、ペットを連れていったところ、「うちでは受け入れることができないが、どこどこで受け入れているのでそちらにお回りください」といった案内をしていただけたという話もあり、徐々に取組が進んでいると思う。

【委員】

年配の方や小さいお子さんもいるので、飼い主が配慮することも必要だとは思いますが、実際に災害があったら必ず一緒に避難すると思うし、何かあってからでは遅いので、ペットを連れていくことは当たり前ということに気づいてもらいたい。

【委員】

学校で避難訓練に携わったが、連れてくる前に一報いただくことで対応を検討するきっかけになるので、事前の連絡を是非お願いしたい。

【委員】

ペットのことはもちろん飼い主が世話をすると思うが、迷い犬や迷い猫の世話は誰がするのか。

【事務局】

迷い犬等は保健所が保護し、獣医師会と連携して救助所を設営する形になる。

【委員】

いざ避難するぞというときに、ペットの受け入れができる場所をはっきり誰にでも分かるように明記しておかないといけないと思う。

【事務局】

山形市など一部自治体では、ホームページでどこの避難所がペット受け入れ可能かを掲

載している。

【委員】

マニュアルを作るだけでなく、どのように啓発していくか、伝えていくかが重要だと思う。年配の方が多からホームページと言われても分からないのではないかな。

【委員】

このマニュアルが飼い主に配られて避難訓練に参加したときに、現場ではそれが周知されておらず微妙な顔をされたり断られたりすることが心配。そういうことがあると、せっかく参加した飼い主さんが「来年は行かないことにしよう」と思ってしまうこともある。

マニュアルを広く配布する前に、市町村や避難所運営の責任者に、ペット同行避難が原則であることやマニュアルの概要について、大々的に周知するとともに回覧板などで住民に告知し、ペット同行避難に対する認識が変わりつつあることを知らせることで、避難所におけるペット受け入れの体制を事前に現場で十分検討しなければならないと思う。

次に、ストレスについてだが、避難所で過ごすペットにはどんなストレスがあるのか、また、ストレス解消の方法についての記述があるとよいのではないかな。

【事務局】

マニュアル 10 ページにある記載の他に、わかることや方法があれば盛り込みたい。

【委員】

最近のペット防災は、「同行避難＝避難できる場所をもっと確保する」という流れが強くなっている。このマニュアルだと、公的な避難所に行かなければというイメージがつきすぎているように感じる。ペットは集まらない方がストレスにならないので、避難先の分散という考え方を踏まえた啓発をしていく必要があると思う。

【事務局】

8 ページで、「一時預かり先を複数探しておきましょう」と触れているが、ストレス軽減の部分と併せて形にできないか考えたい。

【委員】

実際に生きるか死ぬかみたいな災害の場面で、ペットのストレスどうこうとは言ってもらえないのではないかな。

【委員】

災害のレベルにもさまざまあり、必ずしも生きるか死ぬかというレベルになるわけでは

ない。一時的に避難所に行くということもあるので、様々なレベルを想定しておくのがいい。

【委員】

マニュアルが具体的にあると周知しやすいと思うが、話にあるように、一飼い主と自治体との間に知識や取組の面でギャップがあると感じている。ぜひ県には、市民に対しての講座に加えて、市町村に対する講座での具体的な提案をお願いしたい。

【事務局】

毎年、人とペットの災害対策セミナーを開催しており、今年度も開催する予定。飼い主の方はもちろん市町村にも案内をしている。より周知の機会を増やす方向で考えていきたい。

3. 「山形県の猫の適正ガイドラインの改正の方向」について

【委員】

保健所の相談・苦情対応について、対応が統一されていないという話を市民から聞いた。電話に出る職員ごとに違うのか、それとも保健所ごとに違うのか。

【事務局】

保健所には、まず状況をしっかりと聞き、必要な支援につなげる、市町村と連携をとる、さらに動物愛護のボランティアの方々が協力してくださるということであればそういったところとも連携し、最後までしっかりと対応するよう伝えている。

【委員】

雌猫の不妊手術には経過観察の期間が必要だが、飼い主の方が一人でもできる場合とそうではない場合とがある。特に多頭飼育のお家では、ボランティアだけでは手が回らないということもある。こういった場合の技術的支援も考えていただきたい。

【委員】

地域猫の取組みは5、6年前から議論があるが、私は反対している。1頭2頭なら不妊去勢手術をして増えないようにすれば済むかもしれないが、数によってはどんどん増えてしまう。えさをあげる人はかわいそうと思ってあげていると思うが、地域住民の中には糞尿や鳴き声で迷惑に思う人もいる。

【事務局】

来年3月の研修で地域猫活動アドバイザーの方をお呼びする予定。猫に関する苦情が増えているので、どういった取組をしたらよいのか、どう対応したらよいかのヒントになることを期待している。

【委員】

(野良猫の寿命が短いとしても何もしないと) 代替わりして結局数は変わらないどころか増えてしまう。ご近所の方のトラブルにならないよう、やはり手術をして一代で地域から少しずつ数を減らしていかなければならない。

【事務局】

野外で生活する猫の数については、資料 3-3 猫の死亡時収容頭数の推移はひとつの指標になると考えている。はっきりとした要因は分からないが、緩やかな減少傾向にある。不妊去勢手術をしている人や家の中で猫を飼う人が増加し、死亡収容頭数が減っているのではないか。

【委員】

動物愛護の考え方を突き詰めると、「犬や猫は人に飼われるために生きているのか」という問いにぶつかってしまう。ただ、お互いが幸せに生きるためにも、令和の猫の飼い方は室内で飼うことだと思う。

リードをつけて散歩をする猫もすごく増えている。タヌキやキツネ、カラスと比べてしまうと、本当にこの生き方が犬や猫の幸せなのかと悩むこともあるけど、犬や猫が人と一緒に暮らすという選択をしてくれたのだと思って、飼い主はしっかり管理すべきだと思う。

【委員】

野良猫がたくさんいる場所で育ってしまうと、猫が愛玩動物であるという意識が薄くなるのではないか。猫は愛玩動物で、人が守らなければならない存在だという根本の意識の底上げが必要だと思う。

【事務局】

猫に対する考え方について、大変参考になった。周知の方法も含めて検討していきたい。

【委員】

資料 3-3 猫の死亡収容数の推移だが、例年ホームページに掲載されていない。令和 3 年度に関しては処分数の 20 倍近くの猫が外で亡くなっている。大きい問題だと市民の方に知ってもらうためにも、ホームページに掲載してもらいたい。

【事務局】

掲載させていただく。

4. 県内の動物愛護に関する活動について

各地域の活動について報告あり。

【委員】

団体を設立して 12、3 年になるが、長く継続して活動していくために、現在大きく組織変更をしようとしている。行政とも協働しながら活動をしていくことができるようになると思う。

庄内保健所の愛護センターが一日も早く新設されることを期待している。

【委員】

山形県は災害が少なかったので、危機管理に出遅れたところもあると思う。しかしながら、最近では洪水、雨の被害もあり、ある市議会でも避難についての質問が出たという話も聞いている。このペット同行避難マニュアルを、周知させていく方法もこれから考えていかなければならない。

動物愛護は突き詰めていくと、本当に難しい。動物と共生していくためにはどうすればいいか、こういう場で、意見をどんどん出して、動物と人が住みよい社会を作っていくために、努力していかなければならないと思う。